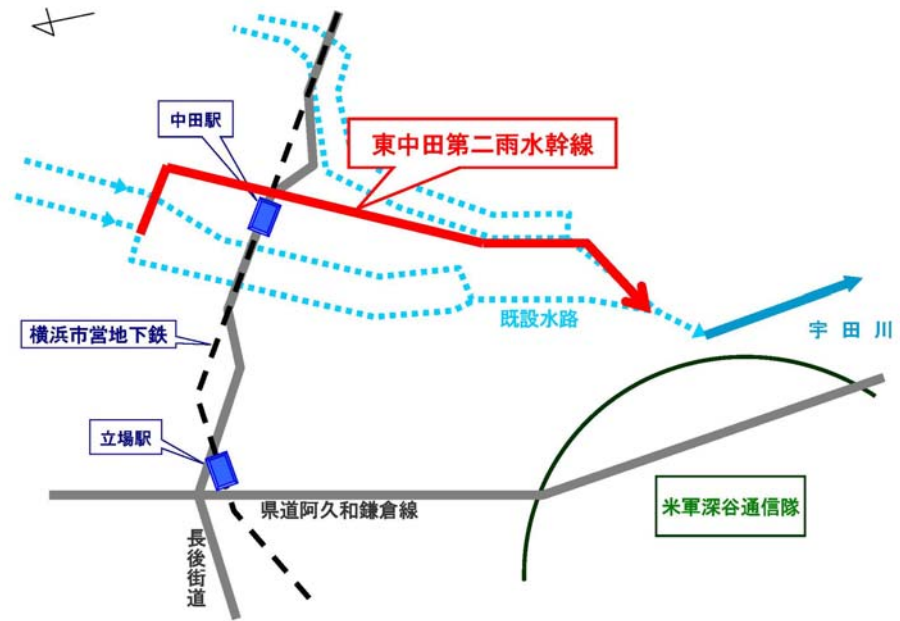


(様式4)

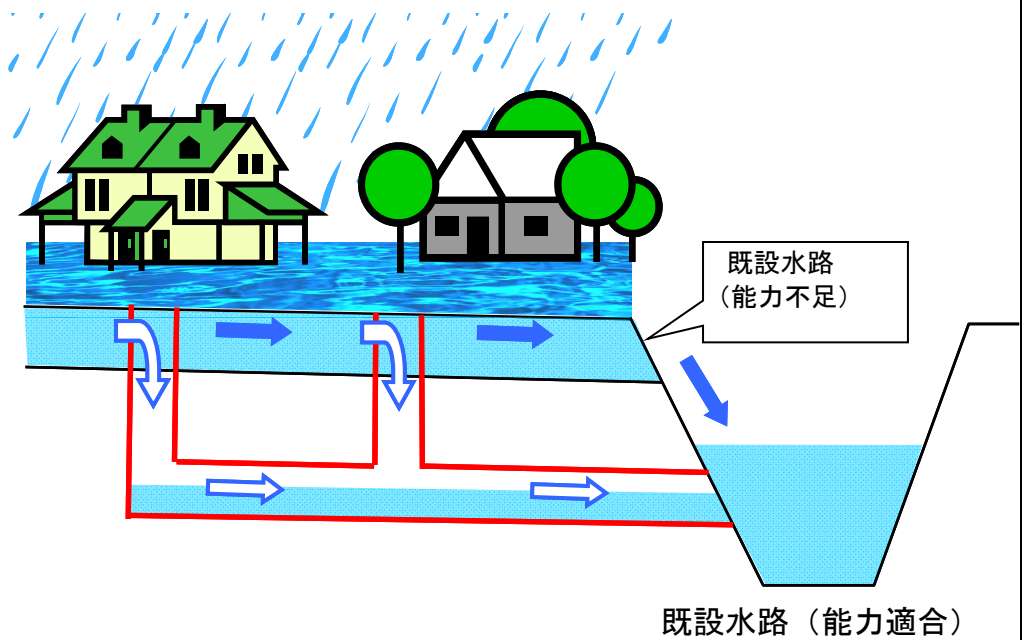
公共事業事後評価調書

番 号	下水-3	事業担当局課	環境創造局 管路整備課										
事業名	西部処理区東中田第二雨水幹線下水道整備事業		完了年度	平成 23 年度									
施工場所	泉区中田東二丁目から中田南五丁目		経過年数	6 年									
目的及び事業概要	<p>○工事目的 泉区中田東、中田南地区においては、既存水路の能力不足により、台風や集中豪雨などにより浸水被害が発生していました。 被害の軽減を図るために、バイパス管となる雨水幹線を整備しました。</p> <p>○事業概要 排水面積：約 36ha 管径：内径 2,000mm 泥土圧式シールド工 延長：約 2.0 km 深さ：土被り約 3 m～6 m</p>												
要因の変化 ・ 事業計画の変更の経緯等	<p>事業費や事業期間等について、大きな変更はありませんでした。</p> <p><参考>比較</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18 年事前評価時点</th> <th>H23 年完了時点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総事業費</td> <td>約 20 億</td> <td>約 16 億</td> </tr> <tr> <td>事業期間</td> <td>平成 19～23 年度</td> <td>平成 19～23 年度</td> </tr> </tbody> </table>					H18 年事前評価時点	H23 年完了時点	総事業費	約 20 億	約 16 億	事業期間	平成 19～23 年度	平成 19～23 年度
	H18 年事前評価時点	H23 年完了時点											
総事業費	約 20 億	約 16 億											
事業期間	平成 19～23 年度	平成 19～23 年度											
事業の効果の発現状況 (費用便益分析等)	<p>平成 23 年度に東中田第二雨水幹線の整備と既設水路の改修が完成したことにより、中田東、中田南地区の約 100ha について、事業前は 1 時間にあたり降雨 24mm/hr の排水の能力であったものが、事業後は約 50mm/hr の降雨に対応することになり、浸水被害の解消が図れました。</p> <p>その結果として、平成 26 年 10 月の台風 18 号の時にも当該地区においては、浸水被害が発生しなかったことから、事業の効果が発現されています。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="3">整備対象流域 約 100ha</th> <th colspan="2">浸水被害件数 (建物)</th> </tr> <tr> <th>供用前 (H16～H23)</th> <th>供用後 (H24～H29)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>34 件</td> <td>0 件</td> </tr> </tbody> </table>				整備対象流域 約 100ha	浸水被害件数 (建物)		供用前 (H16～H23)	供用後 (H24～H29)	34 件	0 件		
整備対象流域 約 100ha	浸水被害件数 (建物)												
	供用前 (H16～H23)	供用後 (H24～H29)											
	34 件	0 件											
対応方針 (案)	<p>計画通りに事業が完了しており、改善措置の必要性等は特にありません。今後、同種事業を進める際も、着実な事業遂行に努めます。</p>												
添付資料	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無												

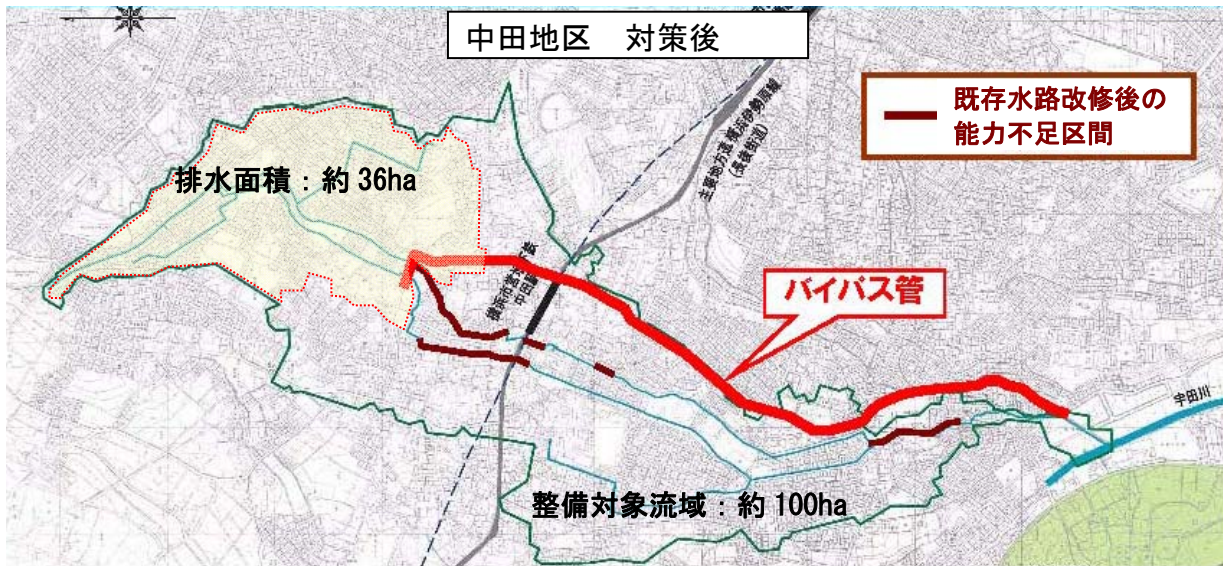
位置図



雨水幹線
イメージ図



事業概要図



水路能力不足



水路改修を行うことにより能力をアップさせる



水路改修を行っても一部の水路で能力が不足するため、既設水路の能力を活かしながら、不足分についてはバイパス管を布設する計画とする